

教科	科目	学年・課程	単位数
国語	国語総合	1年 普通科・ライフデザイン科	5
学習の目標			
1 現代文・古典の学習をすることを通して、総合的な国語力を身に付けることを目指します。			
2 話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して、自分を表現する能力を高めます。			
学習の内容			
1 現代文編			
国語に対する関心を深め、自分の考えをまとめたり深めたりして、目的に応じ、筋道を立てて話したり聞き取ったり文章に書いたりすることや、目的に応じて様々な文章を読みとったり、読書に親しんだりすることを目指します。また、表現と理解に役立てるための音声・表記・語彙・漢字などを理解し、知識を身に付けることを目標とします。			
学習予定作品は、「スイッチをOFFにすることから始める」「世界は謎に満ちている」「羅生門」「水の東西」「日本語万華鏡」「二十億光年の孤独」「卒業ホームラン」「人はなぜ仕事をするのか」「夢十夜」「科学は正しいか」です。			
2 古典編			
古典に親しみをもち、その読解に慣れるために必要な基礎知識（古典文法や古文単語、訓点・語法・漢詩のきまりなど）を身につけ、記述された内容を把握した上で、筆者の考えや心情などを理解し、作品を読み味わい、ひいてはわが国の文化と伝統に対する関心と理解を深めることを目標とします。			
(1) 古文			
学習予定作品は、「古文の学習」「児のそら寝」「なよ竹のかぐや姫」「徒然草」「伊勢物語」「土佐日記」「奥の細道」です。			
(2) 漢文			
学習予定作品は、「漢文の学習」「訓読に親しむ(一)～(三)」「五十歩百歩」「唐詩の世界」「鶏口牛後」「先從隗始」「論語」です。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度			
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているかを評価します。			
2 話す・聞く能力			
目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。			
3 書く能力			
相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。			
4 読む能力			
文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。			
5 知識・理解			
伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 上記の5つの評価の観点から総合的に評価します。			
2 考查、授業ノート、提出物、小テスト、授業・課題への取り組みなど、全ての学習活動を評価の対象とします。			
その他			
「読む」「書く」「話す」「聞く」能力は、我々の生活や自己実現にとって欠かせない、基本的な能力であり、その根本は、すでに家庭生活や義務教育の中で育まれているでしょう。			
我々の生きる社会は日々多様化し複雑さを増しています。特に、21世紀を担う生徒諸君は、世界中の（宗教や歴史政治信条の異なる）人々と対話していかなければなりません。立場や意見を異にする人々ともスムーズに意思疎通でき、さらに、深く豊かな情操を感得し、普遍的な人間性に思いを致すことが、混迷する現代を生き抜く力を支えるものと信じます。			
それには、まず、基礎的語彙が身に付くまで、何度も何度も繰り返し読み書くことです。そして、文章を声に出して読んでみてください。また、学習は目と頭だけではありません。五感をフルに活用して、楽しく取り組みましょう。国語力は読書量に比例するとも言われています。本校では、「朝の読書」に取り組んでいます。これをよい機会として、本に親しんでください。			
授業で分からないことがあったら、すぐに質問しましょう。			

教科	科 目	学年・課程	単位数
地理歴史	世界史A	1年普通科・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 世界の諸地域の歴史を、地理的条件などと関連づけて総合的に学び、歴史的思考力を身に付けることを目指します。 2 国際社会に対応できる、基礎的な知識を身に付けることを目指します。			
学習の内容			
1部 世界の一体化と日本 東アジア・南アジア・イスラム・ヨーロッパ・アメリカ・アフリカ・太平洋地域の風土・民族・宗教について、地域ごとに学習します。また、これらの地域がどのように交流していたのかということに触れ、世界の一体化につながる交流ができあがったことを考えていきます。 16世紀以降、大航海時代により世界規模の商業が発展したこと、その後の産業革命により資本主義が確立したことなどを学習します。また、ヨーロッパ諸国の動きとそれに対する日本などのアジア諸国の対応にも触れます。			
2部 地球社会と日本 第一次世界大戦と第二次世界大戦を取り上げ、歴史の流れを大きく変えたこの二つの世界大戦の背景や内容を学習します。そして、戦後のアメリカ・ソビエト連邦を中心とした冷戦の推移やアジア・アフリカ諸国の植民地支配からの独立について、考えていきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 歴史的な事物・事項に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらに取り組んでいるか、また、積極的な授業態度が身に付いているかを評価します。			
2 思考・判断・表現 近現代史を中心に、地理的な条件や日本の歴史との関連も踏まえて、現代のさまざまな問題を歴史的な観点から考えることができるか、またそれらの考えをもとに自分なりに世界史に対する内容の研究・分析を行い、表現できるかを評価します。			
3 資料活用の技能 地図や写真・絵画資料などを活用する技能を習得できたかを評価します。			
4 知識・理解 歴史の流れを正確にとらえ、歴史的な事物・事項に対する基本的な内容を理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 関心・意欲・態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。 2 思考・判断・表現 … 定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 3 資料活用の技能 … 授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 4 知識・理解 … 定期考査の結果をもとに評価します。			

教 科	科 目	学 年 ・ 課 程	単位数
数 学	数 学 I	1 年普通科・ライフデザイン科	3
学習の目標			
1 数と式 数の拡張の意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、1次方程式・1次不等式及び2次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにします。 2 2次関数 関数の意味について理解を深めるとともに、関数の最大値・最小値を求めることや2次不等式の解を求めることができるようにします。 3 図形と計量 正弦、余弦及び正接の意味や正弦定理・余弦定理を理解し、平面図形や空間図形の計量などに活用できるようにします。 4 データの分析 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにします。			
学習の内容			
1 数と式 式の計算、実数、方程式と不等式について学習します。 2 2次関数 2次関数とグラフ、2次関数の値の変化、2次不等式について学習します。 3 図形と計量 三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量について学習します。 4 データの分析 データの散らばり、データの相関について学習します。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 方程式と不等式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における考え方に関心をもっているか、また、意欲的に課題に取り組むとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを身近な事象の考察に活用しようとする態度を身に付けているかを評価します。 2 数学的な見方や考え方 方程式と不等式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における数学的な見方や考え方を思いだそうとしているか、また、思いだした数学的な見方や考え方をもとに事象をとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えているかを評価します。 3 数学的な技能 方程式と不等式、2次関数、図形の計量及びデータの分析において、事象を数学的に考察して適切な計算方法やグラフを用いて処理できているか、事象を表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できているかを評価します。 4 知識・理解 方程式と不等式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における基本的な概念、原理、法則、用語記号などを理解し、基本的な知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 上記の4つの評価の観点から総合的に評価します。 2 考査・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とします。			

教科	科目	学年・課程	単位数
理科	科学と人間生活	1年 普通科・ライフデザイン科	2
学習の目標			
自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解し、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高めます。			
学習の内容			
1 科学技術の発展 2 人間生活の中の科学 (1) 生命の科学 植物の生育、動物の行動及びヒトの視覚と光とのかかわりについて学習します。 (2) 物質の科学 身近な材料であるプラスチックや金属の種類、性質及び用途と資源の再利用について学習します。 (3) 光や熱の科学 光を中心とした電磁波の性質とその利用について学習します。 (4) 宇宙や地球の科学 太陽や月などの身近に見られる天体と人間生活とのかかわり、太陽系における地球について学習します。 3 これからの科学と人間生活			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 自然の多様性とその成り立ちに関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、自然を総合的にとらえる科学的なものの見方を身に付けているか評価します。 2 思考・判断・表現 自然とそれを取りまく環境に問題を見だし、観察・実験を行うとともに、実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察し、事実に基づいて導き出した考えを表現できるかを評価します。 3 観察・実験の技能 自然の多様性とその成り立ちに関する観察・実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を適確に記録・整理できるかを評価します。 4 知識・理解 自然とそれを取りまく環境について、それらの基本的な概念や原理法則を理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 評価の内訳は、「関心・意欲・態度」20%、「思考・判断・表現」30%、「観察・実験の技能」20%、「知識・理解」30%程度とします。 2 授業中の学習の様子、観察実験の技能、テスト、課題の提出状況などをもとに評価を行います。			
その他			
○ライフサイエンスに関わりの深い内容を重視します。 ○授業でわからないことがあったら、先生にすぐ質問しましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
保健体育	体育	1年普通科・ライフデザイン科	3
学習の目標			
各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			
学習の内容			
体づくり運動では、自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を行います。特に体力を高める運動を行い、体力の増進を目指します。体づくりでは運動実施後の達成感や充実感が得られるよう、内容を精選しコミュニケーションや人との触れ合いを重視し、言語活用能力を養っていきます。 球技では、年間の気候を考慮した授業を計画します。ネット型(バレーボール・バドミントン・テニス・卓球) ベースボール型(ソフトボール) ゴール型(サッカー・バスケットボール)から選択し、ボールを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり、工夫をしたりすることの楽しさを味わいます。 陸上競技では、学校外のコースを自分の能力に応じたペースで走ったり、記録に挑戦したりして、自己の課題を克服する気持ちを育てます。 体育理論ではスポーツのルールはもちろんのこと運動の大切さやメカニズムについて理解し、生涯を通じて運動を実践できる能力や態度を養っていきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように自ら進んで計画的に運動しようとしているか評価します。 公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いているか評価します。 健康や安全に留意して運動しようとしているか評価します。 2 思考・判断 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出しているか評価します。 課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫しているか評価します。 3 運動の技能 自己の能力と運動の特性に応じた課題の克服を目指して運動を行い技能を高めているか評価します。 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けているか評価します。 4 知識・理解 社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し身に付けているか評価します。			
評価の方法			
1 各運動種目とも、スキルテスト・グループノート等を利用して評価します。 特に集団競技においてはグループでのミーティング・グループ練習での活動を大切にし、ゲーム終了後にチームの問題点をフィードバックして修正する時間を与え、活動の様子も評価します。 2 各運動種目とも、「関心・意欲・態度 20%」「思考・判断 20%」「運動の技能 40%」「知識・理解 20%」で評価します。			

教科	科目	学年・課程	単位数
保健体育	保健	1年普通科・ライフデザイン科	1
学習の目標			
今後の生活に必要なかつ大切な健康・安全に関する理解を深めながら、自らの健康を適切に管理する態度を養い、将来活用し生かすことのできる力を身に付ける。			
学習の内容			
第1章 現代社会と健康 「健康の考え方」では、生涯にわたって健康を保持増進するためには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理を行う必要があることを学習します。 「健康の保持増進と疾病の予防」では、生涯を通じて健康を保持増進するためには、我が国の保健・医療制度や機関について知り、地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることを学習します。 「精神の健康」では、人間の精神と身体は密接な関連を持っていることを理解し、自分なりの対処法を身に付けることが、精神の健康ために重要であることを学習します。 「交通安全」では、我が国における道路交通事故の状況を知り、自分自身の心身の状態や車両の特性を把握し、個人の適切な行動が必要であることを学習します。 「応急手当」では、日常生活で起こる傷害や熱中症などの疾病の際には、基本的な応急手当の手順や方法があることを理解し、また心肺蘇生法の方法についても理解・実践できるように学習します。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 健康の保持増進に必要な事柄について関心を持っているか評価します。 仲間と協力して資料を集めたり、意見交換したりするなど意欲的に授業に参加しているか評価します。 2 思考・判断 自分のこれまでの学習や体験、資料などを基にしたり、他の人の意見や考えを聞いたりして、課題の設定や解決の方法を考えて行動しているか評価します。 3 知識・理解 適切な生活行動を選択し、実践すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解しているか評価します。 個人生活及び社会生活の健康や安全について、課題解決に役立つ知識を身に付けているか評価します。			
評価の方法			
1 観点別評価基準に基づいて、授業態度の観察、実習、ノート、課題レポート、定期考査等を参考にして評価します。 また、各項目ごとに関連性のある旬の話題やニュースを各自持ち寄って情報交換をし、知識として備えていればよい事項を発表させ評価します。 (授業態度の観察、実習の評価)			

教 科	科 目	学 年 ・ 課 程	単位数
芸術	音楽 I	1 年 普通科・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深めます。 2 音楽を愛好するために必要な基本的な知識・技術を身に付けます。			
学習の内容			
1 楽譜を見て音程やリズム、コード等の音楽の構成要素を理解し、表現するための基本的な知識を身に付けます。 2 キーボードの基本的な奏法に興味や関心を持ち、グループ活動により表現の楽しさを学習します。 4 さまざまな曲を通して、それぞれに応じた歌唱法、発声法の多様性に興味・関心を持ち意欲的に表現します。 5 芸術音楽、日本の伝統音楽について関心を持ち、意欲的に鑑賞する態度を身に付けます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 音楽を愛好し、音楽文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているかを評価します。 2 表現の創意工夫 感性を働かせて音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫しているかを評価します。 3 表現の技能 創造的な音楽表現をするために必要な技能を身に付けているかを評価します。 4 鑑賞の能力 音楽を幅広く理解し、そのよさや美しさを感じているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期の評点は、授業内で行う実技試験、筆記試験と、各活動に取り組む姿勢を考慮して評価します。 2 関心・意欲・態度 20% 表現の創意工夫 20% 表現の技能 40% 鑑賞の能力 20%を基準に評価します。			
その他			
資料等を整理するA4サイズのファイルを準備して下さい。 進路に音楽が必要な者は、早めに相談に来て下さい。			

教科	科目	学年・課程	単位数
芸術	美術 I	1 年 普通科・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を養うことを目指します。 2 感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深めることを目標とします。			
学習の内容			
1 絵画・彫刻 感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現力を養います。 2 デザイン 目的、機能、美しさなどを考えて主題を生成し、形や色彩などの造形要素の働きを考えることで、創造的な表現力を養います。 3 鑑賞 美術作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているか評価します。 2 発想や構想 感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的に表現を工夫しているかを評価します。 3 表現の技能 創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けているかを評価します。 4 鑑賞の能力 作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、日本の美術の歴史などを理解し、そのよさを創造的に味わおうとしているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期の評点は、各活動への取組と、授業内で制作した作品を考慮して評価します。 2 関心・意欲・態度 25%、発想や構想 25%、創造的な技能 35%、鑑賞の能力 15%を基準として評価します。			
その他			
制作に関して分からないことや疑問があれば、積極的に質問して下さい。 美術系進路を考えている人は早めに相談に来て下さい。			

教科	科目	学年・課程	単位数
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	1年ライフデザイン科	3
学習の目標			
1 英文を読んだり聞いたりして、情報や考えを理解し、概要や要点をとらえることができるようになることを目指します。 2 聞き手に伝わるよう音読ができるようになることを目指します。 3 学んだことに基づき、英語で書いたり話し合ったりして意見の交換ができるようになることを目指します。			
学習の内容			
Lesson 1 Why Do We Study English? (現在形・過去形) Lesson 2 Washoku: Our Traditional Food (助動詞) Lesson 3 What Should I Do? (進行形) Lesson 4 My School, Your School (不定詞) Lesson 5 Peace, the Polar Bear (動名詞) Reading 1 Let's Try Riddles! (動名詞) Lesson 6 Flying Wheelchairs (現在完了形) Lesson 7 Moving As One (受け身) Lesson 8 Convenience Stores: the Keys to Their Success (分詞) Lesson 9 Malala Yousafzai: Education Can Change the World (比較) Lesson 10 Ando Momofuku: the Father of Instant Noodles (関係代名詞) Reading 2 Hachiko			
評価の観点			
1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを評価します。 2 外国語表現の能力 学習したことや与えられた話題について、英語で話したり書いたりして表現できるかを評価します。 3 外国語理解の能力 英語を聞いたり読んだりして、相手が伝えようとする情報や考えなどを理解しているかを評価します。 4 言語や文化についての知識・理解 言語やその運用についての知識を身に付け、その背景にある文化などを理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期の評価は、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解を総合的に評価します。 2 授業での小テストや課題への取組、提出物、授業態度なども評価の対象とします。 3 長期休業中の課題および実力テストの結果も評価の対象とします。			

教科	科目	学年・課程	単位数
家庭	家庭総合	1年・ライフデザイン科	3
学習の目標			
1 家族や生活の営みを人の一生との関わりの中で総合的にとらえ、生活に必要な知識と技術について学習し、家庭生活を主体的に営む態度を身に付けていきます。 2 生活する上での様々な課題を主体的に解決できる実践的な態度を育成します。			
学習の内容			
1 学習項目は「自分らしい人生」、「子どもと共に育つ」、「高齢社会を生きる」、「共に生き、共に支える」、「経済生活を営む」、「食生活をつくる」、「衣生活をつくる」、「住生活をつくる」、「生活を設計する」です。 実験、実習、調査・研究、観察などを通して、実践的・体験的に学んでいきます。 2 学んだ知識と技術を生かして、各自の家庭生活や地域の生活に深い関心を持ち、課題を見だし、これを改善充実しようとする積極的な態度で望みます。 3 ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動の意義や実施方法を理解し、課題解決を目指し、主体的に計画を立てて実践していきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 人の一生とのかかわりの中で、家族・家庭、子どもの発育と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 人の一生とのかかわりの中で、家族・家庭、子どもの発育と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、よりよい生活を工夫し創造する能力を身に付けているかを評価します。 3 技能 人の一生とのかかわりの中で、家族・家庭、子どもの発育と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を生活の場で生かせるように総合的に身に付けているかを評価します。 4 知識・理解 人の一生とのかかわりの中で、家族・家庭、子どもの発育と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を生活の場で生かせるように総合的に身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期とも、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「知識・理解」を総合的に評価します。作品・実習などの「技能」も評価の対象となります。 2 「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」は、授業を聞く態度、ノート、ワークシート、レポート、感想文、発表の仕方や内容、実習意欲や態度について評価します。 3 ホームプロジェクトについては夏季休業中に行い、それぞれ2学期の提出物の「思考・判断・表現」の評価とします。			
その他			
ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動に積極的に取り組みましょう。 実験・実習を行うに当たっては、火気、用具、材料などの取り扱いに注意をして、事故がないように気を付けましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
家庭	生活産業基礎	1年・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 生活と産業の関わりについて理解し、生活に関連する職業などへの関心を高め、職業観、勤労観を育成します。 2 各分野におけるスペシャリストとしての必要な専門の知識・技術を習得しようとする意欲を持つとともに、実践的な態度を育成します。			
学習の内容			
1 生活と産業 食生活、衣生活、住生活、家庭経営、保育などの生活とそれらを支える産業との関わりを扱います。 2 社会の変化と生活産業 社会の変化に伴う生活に関する価値観の多様化や、消費者の多様なニーズにこたえるための生活産業の発展に関する基礎的な内容を扱います。 3 生活産業と職業 産業の種類や特徴及び関連する職業について扱い、具体的な事例を通して理解を深めます。 4 職業生活と自己実現 専門科目の学習と職業生活の関わりを扱います。また、職業と職業資格についても触れます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 生活と産業との関わりや生活に関連する職業について関心を持ち、生活産業の各分野でスペシャリストとして必要な知識や技術を進んで習得しようとする意欲と実践的な態度を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 ライフデザイン科のより専門的な学習と卒業後の進路について思考を深めているかを評価します。 3 技能 生活と産業の関わりや生活産業と職業に関する学習を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現することができるかを評価します。 4 知識・理解 生活と産業との関わり、生活産業の社会的な意義や役割、生活に関連する各分野の職業について理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期とも、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「知識・理解」を総合的に考慮して評価します。実習などの「技能」も評価の対象となります。 2 「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」は、授業を聞く態度、ノート、ワークシート、レポート、感想文、発表の仕方や内容、実習意欲や態度について評価します。			
その他			
「生活産業基礎」では、私たちの生活を支える衣食住や保育・介護などのヒューマンサービスに関わる産業について理解を深めて将来のスペシャリストを目指していきます。いろいろな分野から自分の進路を選択していくための学習ともなります。2年次からのコース選択のためにも役立つよう積極的に取り組みましょう。進路室の資料も活用しながら自己実現を図りましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
家庭	課題研究	1年・ライフデザイン科	1
学習の目標			
1 地域の生活産業や生活文化について学習します。 2 SDGsについて学習し、持続可能な社会の構築に向けた視点から地域生活を見つめ、課題を発見し、課題解決に向けた提案を行い、課題研究の学習方法の習得と課題発見力を育成します。 3 地域への誇りや愛着心を醸成し、地域の魅力化・活性化に寄与する態度と使命感を育成します。			
学習の内容			
1 SDGsについて 持続可能な社会の構築に向けた視点について学習します。 2 生活文化 地域の伝統産業や生活関連産業施設の見学や、外部講師の講義・演習を通して、生活産業や生活文化を広く理解し、文化の継承等について考えます。 3 多世代交流 先進地域の視察等を通し、共生のまちづくりについて考えます。 4 課題発見力 様々な講義・演習・見学などを通して、地域課題を発見し、解決に向けての提案等を考えます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 地域の産業と生活との関わりについて関心を持ち、必要な知識や技術を進んで習得しようとする意欲と実践的な態度を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 ライフデザイン科のより専門的な学習と地域の課題発見や解決に向けて思考を深めているかを評価します。 3 技能 地域の産業や文化、課題等について学習したことを生かし、発見した課題の解決に向けて合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現することができかを評価します。 4 知識・理解 生活産業や生活文化の社会的な意義や役割、地域の課題について理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期とも、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「知識・理解」を総合的に考慮して評価します。実習などの「技能」も評価の対象となります。 2 「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」は、授業を聞く態度、ノート、ワークシート、レポート、感想文、発表の仕方や内容、実習意欲や態度について評価します。			
その他			
「課題研究」では、地域との協働により、地域の産業や文化を理解し、課題を発見し、地域の魅力化・活性化に向けて、高校生としてできることを考えます。 自分の進路を選択していくための学習にもなります。外部講師による学習や校外での演習等もありますので、積極的に取り組み、社会とのつながりや共生について考えていきましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
家庭	ファッション造形基礎	1年・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得します。 2 デザインや着用目的に適した被服材料を選択して、洋服や和服についての製作に関する理論と技術を学習し、計画に従って能率的に製作できるファッション造形の基礎的な能力と実践的な態度を身に付けていきます。			
学習の内容			
ファッション造形の基礎として、被服の構成・被服の材料・洋服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を学習します。 初段階として、知識と技術の定着を図るために以下のような被服技術検定を実施します。 1年次 全国高等学校家庭科技術検定4級・・・巾着袋（ミシン縫い・手縫いの基礎） 全国高等学校家庭科技術検定3級・・・アウターパンツ			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴に興味を持ち、被服を創造的に製作する意欲と実践的な態度を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴について思考を深め、知識と技術を活用して適切に判断し、創造する能力を身に付けているかを評価します。 3 技能 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴及び被服製作に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、さらに計画的・能率的かつ創造的に被服製作ができる専門的な技術を身に付けているかを評価します。 4 知識・理解 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴及び被服製作について理解し、専門的な知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 学期の評価は「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」を総合的に評価します。 2 「関心・意欲・態度」は実習への取組態度や進捗など、「思考・判断・表現」「技能」は作品や実習中の評価など、「知識・理解」はペーパーテストや作品で評価します。			
その他			
被服製作には手先の器用さ、丁寧さ、根気強さが必要です。そのためにはまず1年次の基礎縫いにおいて、授業時間だけでなく家庭においても繰り返し練習することが大切です。基礎ができていないと高度な作品を仕上げることは困難です。また、進捗が遅れがちな人は放課後残ってする必要があります。遅れば遅れるほど作品のできも悪く、意欲も低下します。			

教科	科目	学年・課程	単位数
家庭	フードデザイン	1年・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を身に付けることを目指します。 2 食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する態度を育てることを目指します。			
学習の内容			
この科目では、食生活と健康について学習し、食事の意義と役割を理解するとともに、心身ともに健康で豊かな食生活を営むために栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を身に付けていきます。フードデザイン実習を通して、学んだ知識や技術を自分自身の食生活に取り入れて食事を総合的にデザインする能力と態度を身に付けていきます。 また、調理技術や知識を身に付けるために、1年次に全国高等学校家庭科技術検定4・3級を目指します。検定内容は以下の通りです。 4級・・・調理の基礎（切り方・計量・基礎知識） 3級・・・調理手法の基礎（調理・4つの食品群の食品構成の目測）・筆記試験			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 食生活に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組んでいるか、食事を総合的にデザインする実践的な態度を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 食事を総合的にデザインすることを目指して自ら思考を深めているか、学習した知識と技術を活用して、創意工夫する能力を身に付けているかを評価します。 3 技能 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する基礎的・基本的な技術を身に付けているか、食事を総合的に捉えて計画・実践できるかを評価します。 4 知識・理解 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか、食事の意義と役割や豊かな食事について総合的に理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期とも、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「知識・理解」、実習や技術検定などの「技能」を総合的に考慮して評価します。 2 「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」は、授業を聞く態度、ノート、ワークシート、レポート、感想文、発表の仕方や内容、実習意欲や態度について評価します。			
その他			
調理実習については、家庭で予習、復習をし、実習に真剣に取り組み、調理技術や知識を身に付ける努力をしましょう。			